

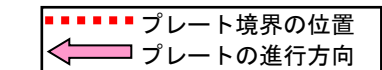
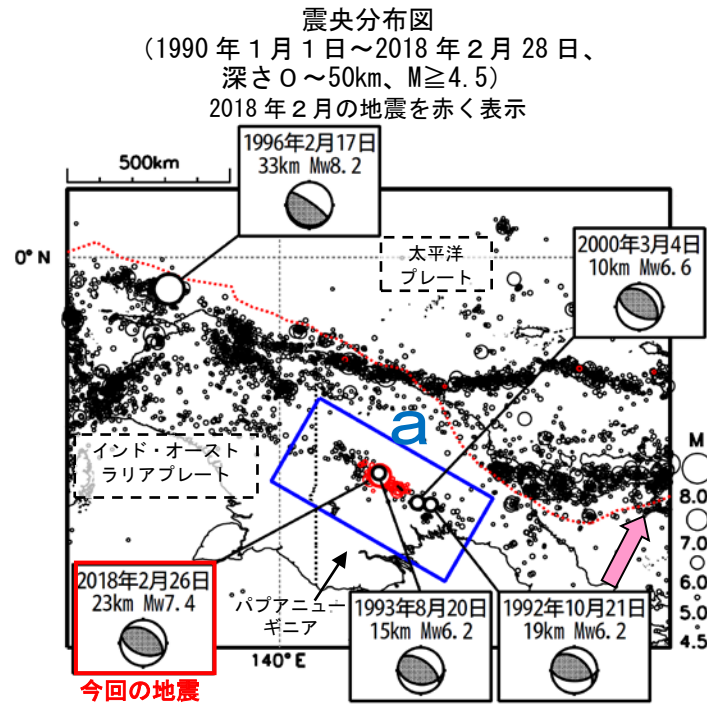
2月26日 パプアニューギニア、ニューギニアの地震

2018年2月26日02時44分(日本時間、以下同じ)に、パプアニューギニア、ニューギニアの深さ23kmでMw7.4の地震が発生した。この地震は、インド・オーストラリアプレートの地殻内で発生した。発震機構(気象庁によるCMT解)は北北東-南南西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

気象庁は、この地震について同日03時11分に遠地地震に関する情報(日本への津波の影響なし)を発表した。今回の地震の発生後、M4.5以上の地震が74回発生するなど西北西-東南東方向に活動が活発になっている(2月28日現在)。今回の地震により、周辺では地滑りが発生しており、死者約98人の被害が生じている。

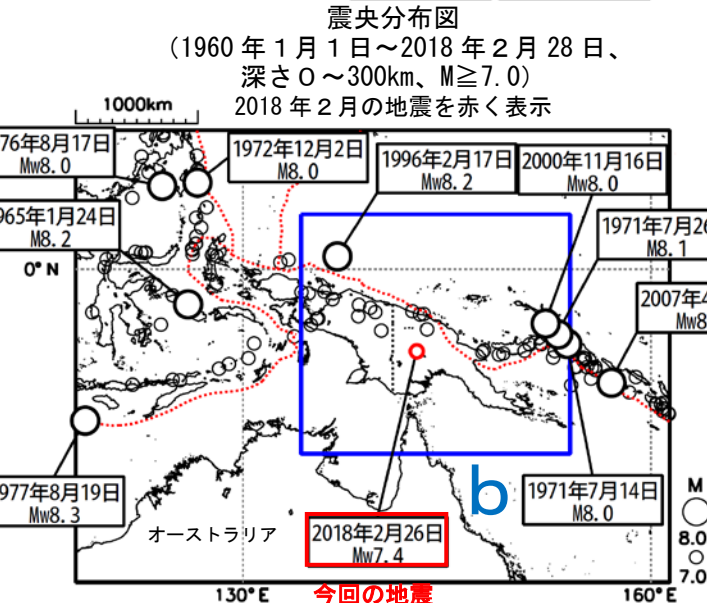
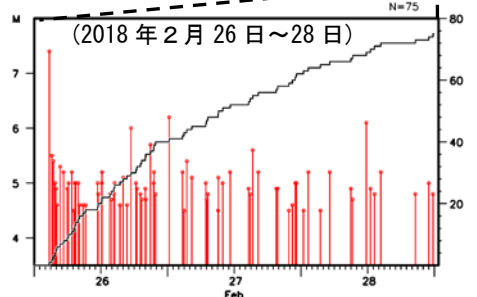
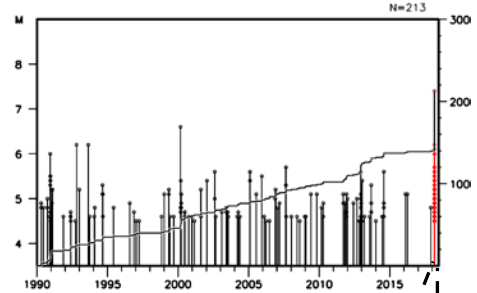
1990年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域a)では、M6.0以上の地震が数回発生しており、今回の地震とほぼ同じ場所で発生した1993年8月20日のMw6.2の地震では、負傷者5人の被害が生じている。

1960年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、M7を超える地震が度々発生しており、1996年2月17日に発生したMw8.2の地震では、死者166人の被害が生じている。この地震により、父島二見で104cmの津波を観測するなど日本の広い範囲でも津波を観測した。

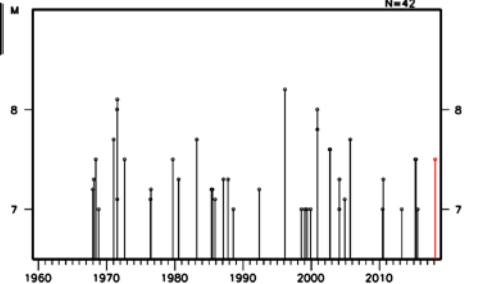


プレートの進行方向は、太平洋プレートを固定した場合の相対的な方向である。

領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図



※本資料中、今回の地震の発震機構と Mw は気象庁による。その他の地震の発震機構は Global CMT による。上図内の震源要素は米国地質調査所 (USGS) による。下図内の震源要素は国際地震センター (ISCHEM) による。今回の地震の被害は、OCHA (UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所) による (2018年3月7日現在)。過去の地震の被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置と進行方向は Bird (2003) *より引用。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.